



108th CRC Seminar

(第4回 植物生命科学セミナー)

工藤洋先生（京都大学）はフィールド環境で生育する自然植生ハクサンハタザオが「花を咲かせる時期をどのように制御しているのか?」、その制御機構を網羅的かつ時間軸を考慮した大規模な発現解析から解明を進めておられます。「フィールド科学」と「分子生物学」をつなぐ先鋭的な研究は注目を浴びており、現在、CRESTはじめ、多くのプロジェクトを推進しておられます。研究の面白さなどざっくばらんに、ご紹介いただきます。多くの皆様の参加をお待ちしています。

工藤 洋 先生 (Prof. H. Kudoh)

(京都大学・生態学研究センター: Kyoto University)

「植物の分子フェノロジー」

(Molecular Phenology in Plants)

時間：2017年7月14日（金）16:30～18:00

場所：総合教育研究棟（生命系）7番講義室

フェノロジーとは、季節に応じて見られる生物現象の研究であり、植物では開花・結実・展葉などが対象とされる。この季節応答を遺伝子発現などの分子遺伝学的手法を用いて研究するのが分子フェノロジーである。RNA-Seqを含む遺伝子発現定量法の発達により、最近、分子フェノロジー研究が活発になりつつある(Kudoh: *New Phytologist* 210: 399-412, 2016)。本講演では、アブラナ科の多年草ハクサンハタザオ (*Arabidopsis halleri* subsp. *gemmaifera*) を対象とした分子フェノロジーの研究について、花成抑制遺伝子 *FLC* (FLOWERING LOCUS C)、時系列トランスクリプトーム、および、ヒストン修飾解析について、自然の複雑な状況における機能に焦点を当てて紹介する。

Recently, importance of studying organisms in their natural habitats has been emphasized in the areas of biology that aim to understand functions of genes as well as other molecular and cellular processes. The aim of the talk is to introduce molecular phenology, a methodologically and conceptually new approach for the understanding of organismal seasonality.

(問合先：下野 裕之：shimn@iwate-u.ac.jp)